

院内がん登録は、当院でがんと診断したり治療を行った、すべての患者さんのがん情報を登録する仕組みです。また、2016年からは「がん登録等の推進に関する法律」により、すべての病院で全国がん登録が始まりました。

これらは、国や自治体では、がん検診等の公共事業の指標として利用されます。また、各医療機関では、がん診療を分析し、医療の質を上げるために利用します。ですから「院内」と呼ばれていても、全国で登録方法が統一されています。

登録項目等、詳細は、国立がん研究センターのホームページをご覧ください。

☞ https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/hosp_c/hosp_c_registry.html

特集：新型コロナウイルス感染症とがん登録

今回、2021年のがん登録情報を公開するにあたり、特別集計として、新型コロナウイルス感染症の影響についても公開されています。

全国的な分析結果は、国立がん研究センターのホームページをご覧ください。

☞ https://ganjoho.jp/public/qa_links/report/hosp_c/pdf/2021_report_02.pdf

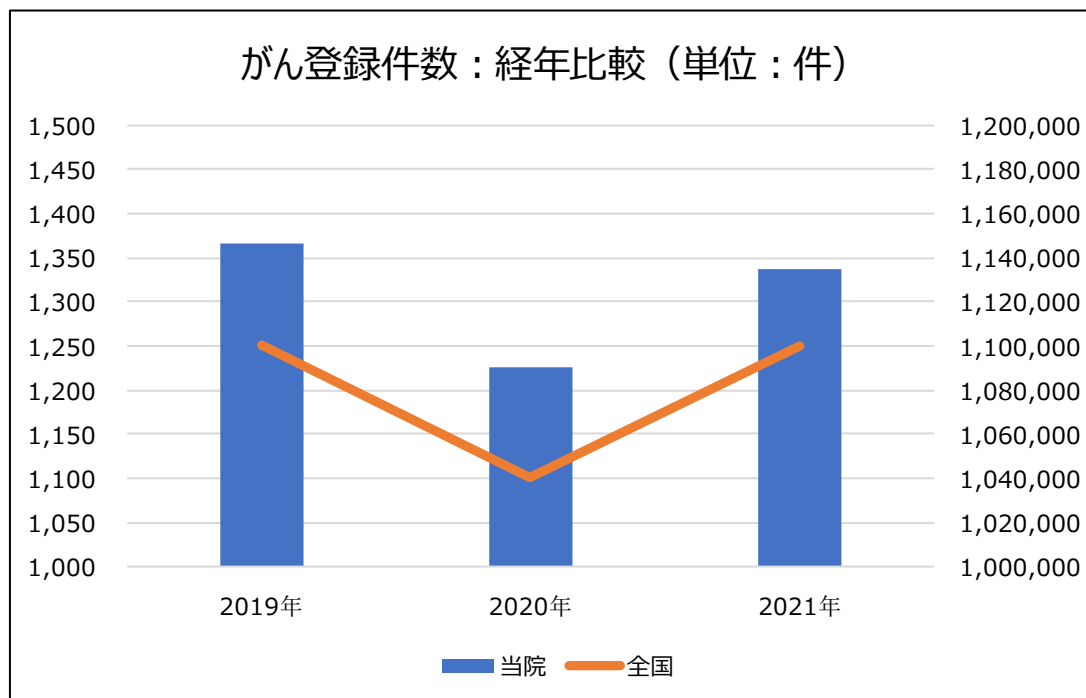
2020年は新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威をふるいました。当院でも、他の診療を制限しながら発熱外来を設置するなど大きな影響がありました。現在も完全に収まったわけではありませんが、罹患者数は減少しています。

2020年の前後の年のがん登録データが出揃ったこのタイミングで、前後の年との比較結果をお知らせすることにいたしました。

今後も新たに分析した結果は追加してお知らせします。

【登録件数】

	2019年	2020年	2021年
当院件数	1,366	1,225	1,337
全国件数	1,100,415	1,040,379	1,099,864
データ提出施設数	849	863	870



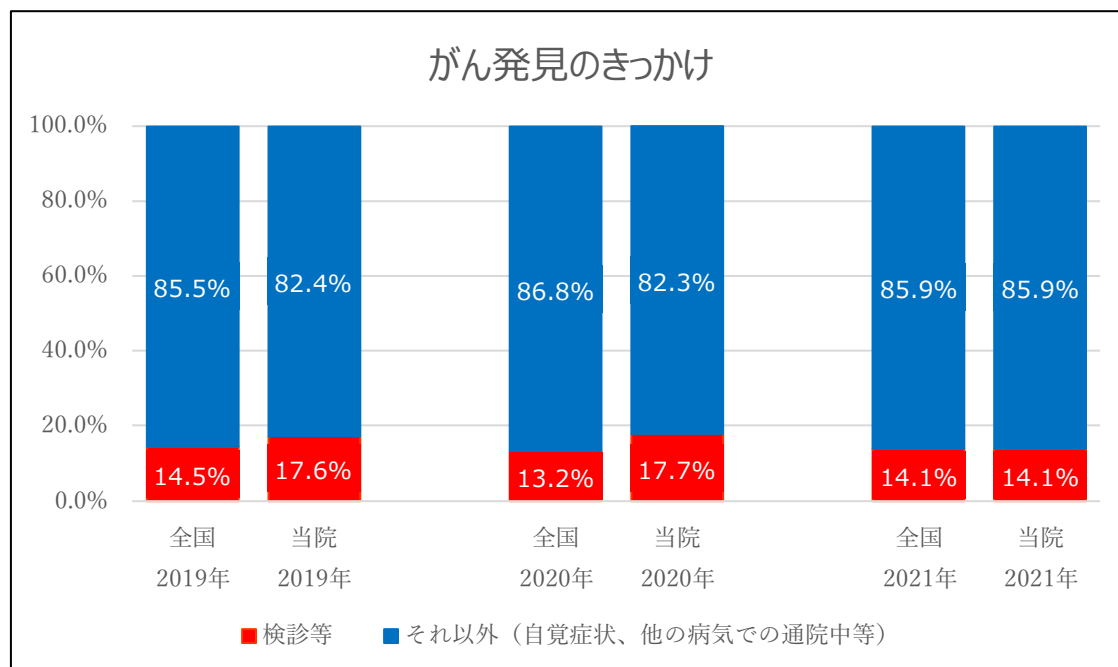
登録をした件数をこの3年間で比較しました。棒グラフは当院の件数、折れ線グラフは全国の件数です。2020年は新型コロナウイルス感染症流行による影響で全国的に件数が少なくなりました。2021年は2019年と同じくらいの件数になっています。

当院の登録件数も全国とほぼ同様で、2020年は減少し、2021年には2019年の件数に近くなりました。

また、データを提出している施設数は、年々増加しています。

【発見経緯】

	2019年	2020年	2021年
検診をきっかけにした発見率：当院	17.6%	17.7%	14.1%
検診をきっかけにした発見率：全国	14.5%	13.2%	14.1%



何をきっかけに病院を受診し、がんと診断されるに至ったか、という出発地点を見る項目です。今回、がん検診や自治体・職場などの健康診断、人間ドックといった「検診」がきっかけになった人とそうでない人という区分けで分析しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年はがん検診や自治体の健康診断を受けない人が増えたためのがんの発見件数が少なくなっているのではないかと、という予想からです。

諸外国のがん登録でも、ロックダウン時には検診群の発見が大幅に減少しているという報告がされています。

全国的には2020年は1%程度減少し、2021年は増加という予想通りの数値になっていますが、当院では、2020年も増加しており、2021年の方が少なくなっています。

ただ、2021年もがん検診の二次検診（精密検査）で受診した人は特に減っていません。検査の結果、良性だった（がんではなかった）という人が多い場合に、数字としてはこのような形で表れます。

【治療内容】

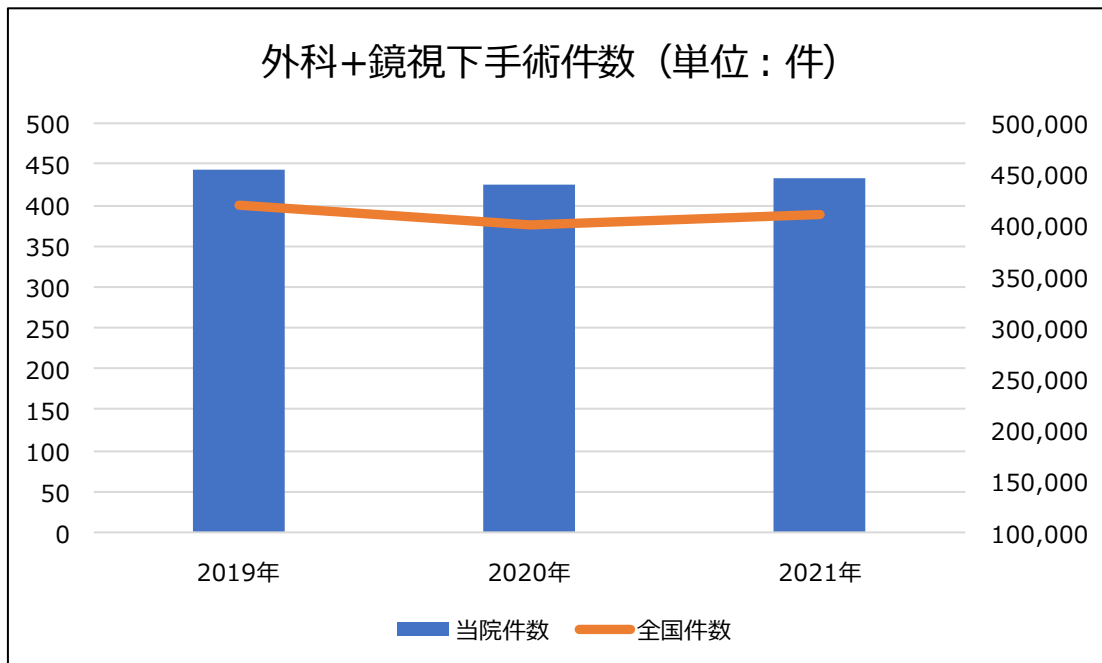
それぞれの治療を行った件数を示します。

1人の人が手術と放射線治療をした場合には、どちらの件数にも含まれます。

また、がん登録は初回治療について登録をすることになっていますので、再発した後の治療は含まれません。そのため、実際にそれぞれの患者さんが受けた治療とこのデータとでは数字が異なることをご了承ください。

《外科+鏡視下手術件数》

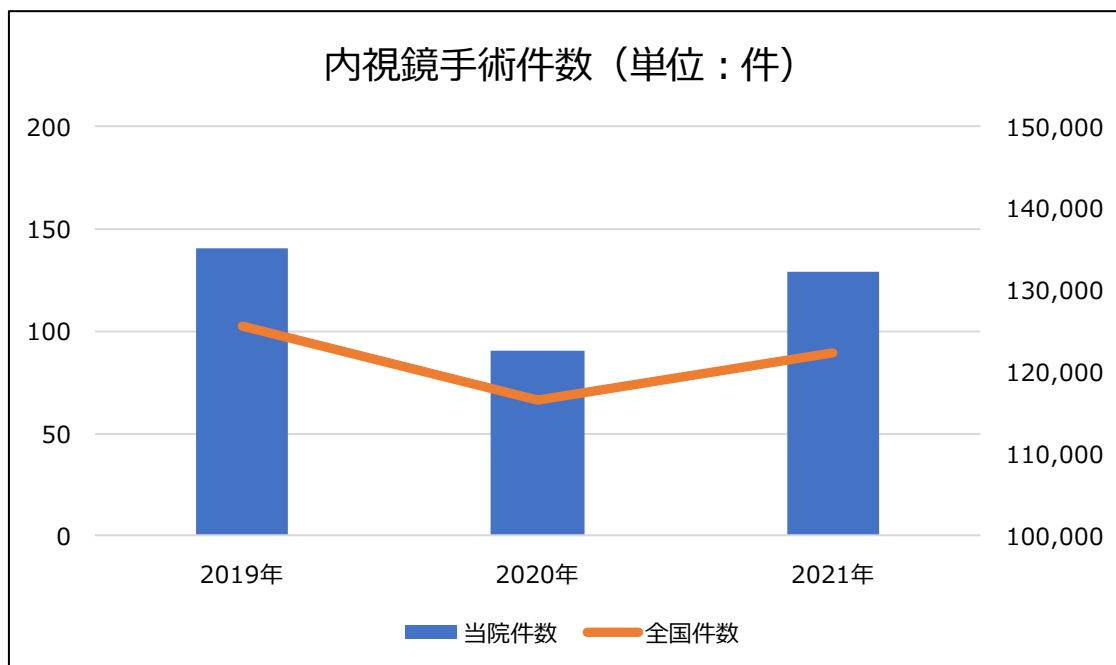
	2019年	2020年	2021年
当院件数	443	426	432
全国件数	419,954	400,636	411,225



手術件数は2020年に微減しましたが、全国、当院ともに、ほぼ横ばいでした。

《内視鏡手術件数》

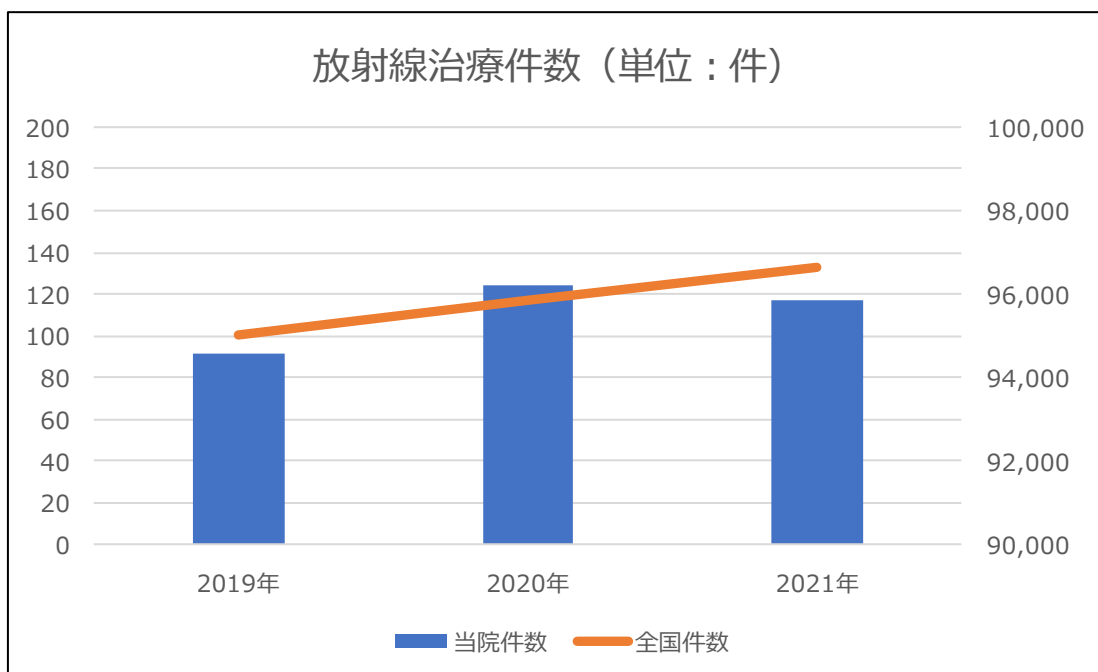
	2019年	2020年	2021年
当院件数	140	90	129
全国件数	125,564	116,523	122,355



内視鏡手術件数は、全国、当院ともに2020年に減少し、2021年には2019年の件数とほぼ同数になりました。当院での内視鏡手術実施件数は2020年もほぼ同数だったのですが、良性腫瘍の患者さん、再発の患者さんが多かったため、初回の悪性腫瘍の件数は減少となっています。

≪放射線治療件数≫

	2019年	2020年	2021年
当院件数	91	124	117
全国件数	95,018	95,873	96,639



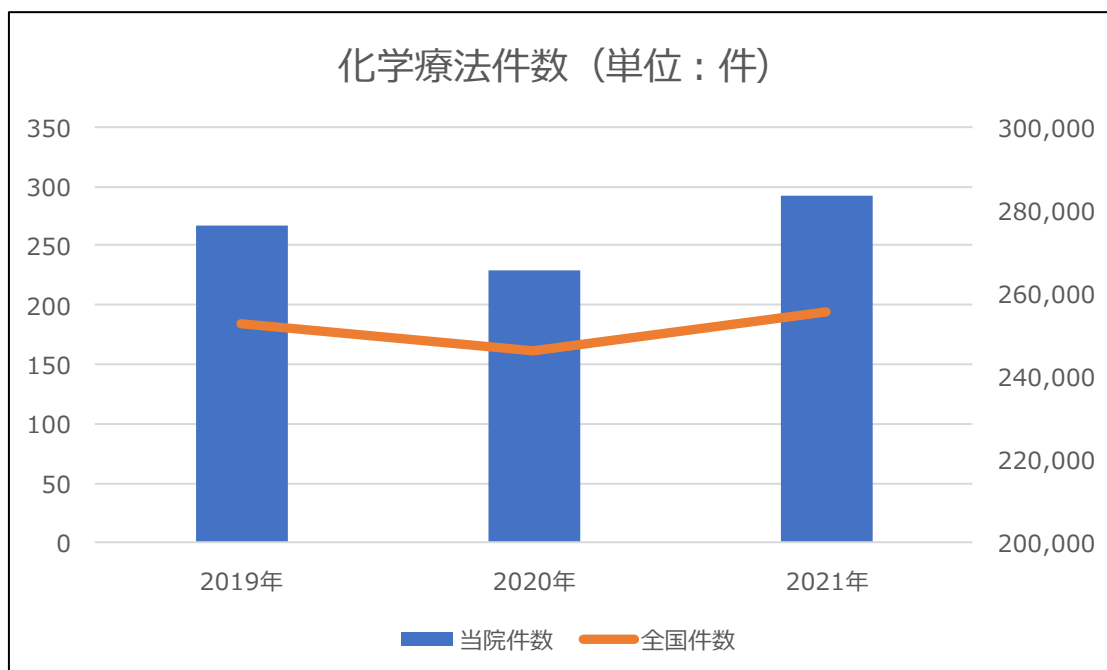
放射線治療件数は、全国と当院では異なる形になりました。

全国では年々少しずつ増加し、右肩上がりのグラフになっています。

当院では2020年が最も多くなっています。放射線治療は、再発した場合に痛みを和らげる目的で行うことも多く、初回治療に限定したこのグラフは、実際の治療件数とは異なります。

《化学療法件数》

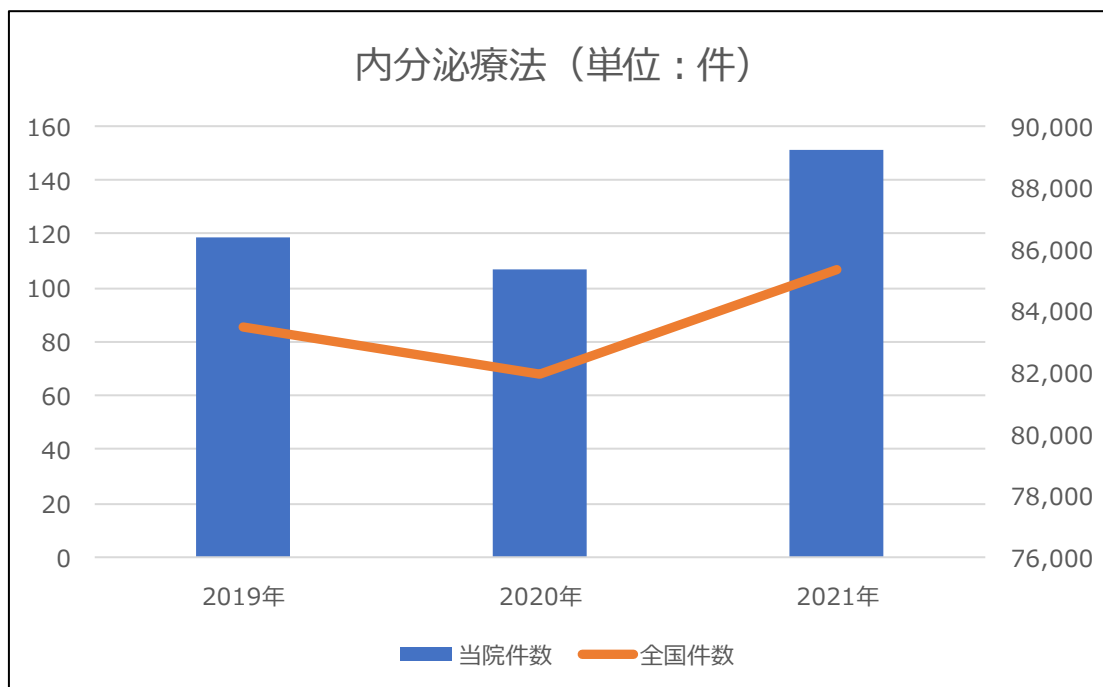
	2019年	2020年	2021年
当院件数	267	230	293
全国件数	252,692	246,122	255,492



化学療法（抗がん剤）の治療件数は、2020年に減少し、2021年には増加して2019年よりも多くなりました。全国、当院とも同様でした。

《内分泌療法》

	2019年	2020年	2021年
当院件数	119	107	151
全国件数	83,449	81,947	85,341



内分泌療法（ホルモン療法）の治療件数は、2020年に減少し、2021年には増加して2019年よりも多くなりました。全国、当院とも同様でした。

ここからは、毎年、公開している報告です。

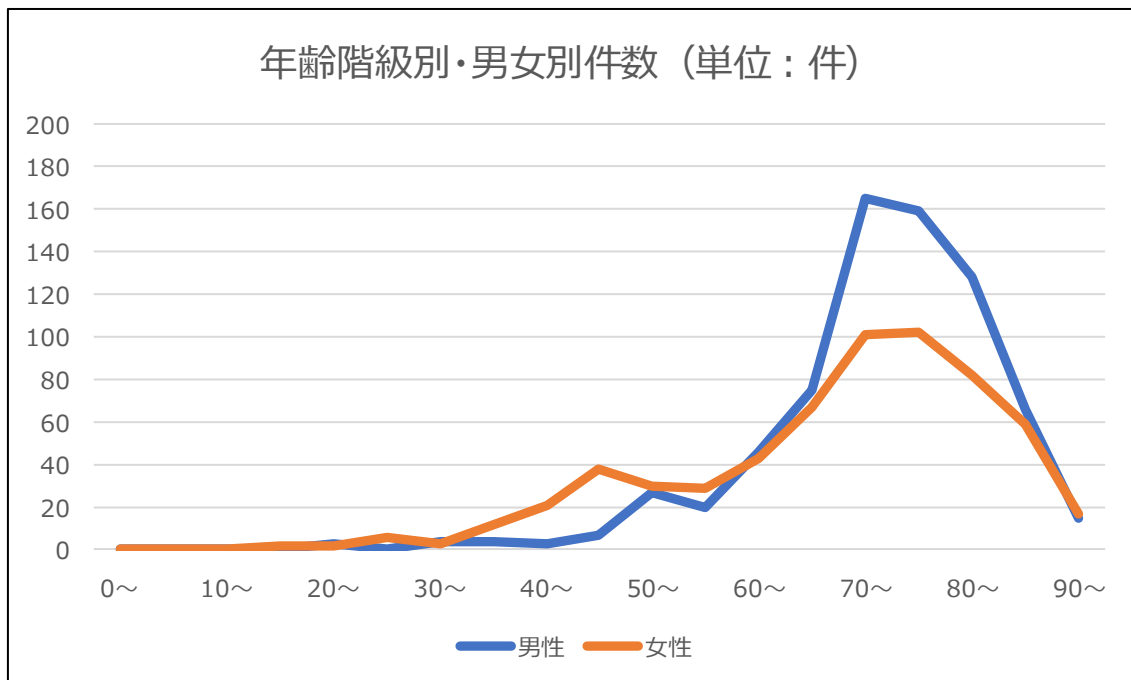
【年齢】

がんと診断された時の年齢です。全国平均は70.6歳で、当院は71.9歳でした。

全国平均	当院平均
70.6歳	71.9歳

施設別にみた75歳以上の患者さんの割合です。当院は、75歳以上の患者さんの割合が、全国的にみると少し多いことがわかります。

全国中央値	全国最小値	全国最大値	当院
43.0%	0.0%	73.7%	47.7%



当院の患者さんが、がんと診断された時の年齢を5歳刻みで表しました。

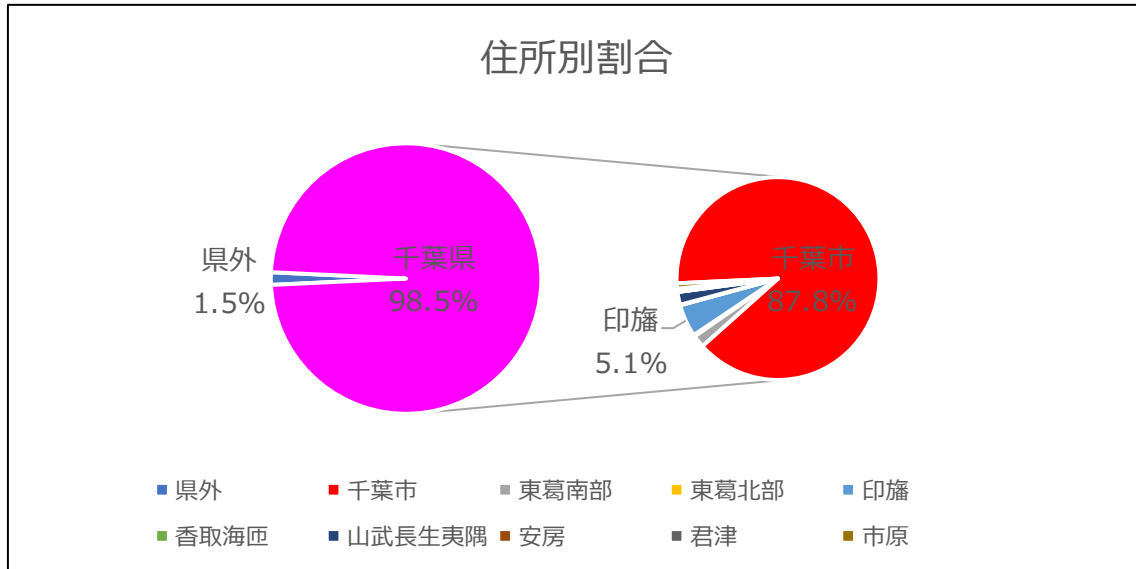
男女とも70代が一番多いです。昨年までと比べると、70代後半の人数が増えました。

また、60代前半までは女性の方が多く、60代後半でほぼ同数となり、70代で男女逆転してからは男性の方が多くなって開きが出ます。乳がん、子宮がんといった女性特有のがんは、他のがんに比べて若い世代でも罹患しやすいことが影響していると思われます。

【住所】

同一都道府県から来院している患者さんの割合です。当院は、全国平均に比べて県内の患者さんが多いです。

全国平均	全国最小値	全国最大値	当院
93.7%	77.1%	99.5%	98.5%



当院の患者さんが、がんと診断された時の住所を二次医療圏(注)ごとに表しました。87.8%が千葉市内の人で、次いでお隣の印旛医療圏の人が多いです。割合はほぼ毎年同じです。

(注) 一次医療圏：原則として市区町村。三次医療圏：原則として都道府県。二次医療圏は一般的な病気の入院治療ができる範囲で、二次医療圏を単位として医療政策が作られます。

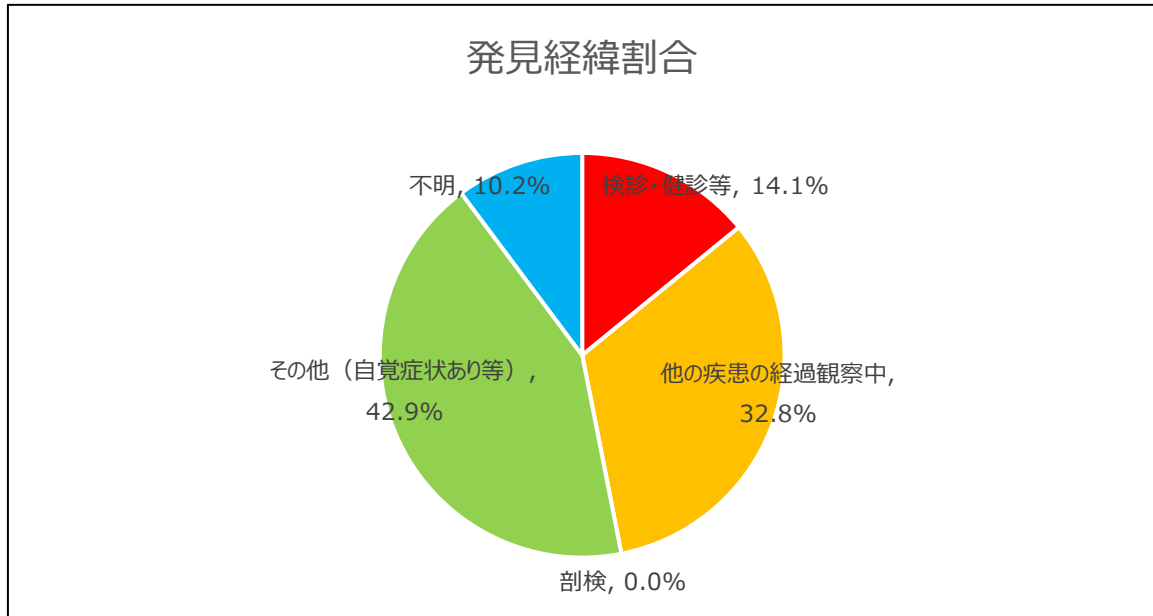
《千葉県の二次医療圏》

二次医療圏名称	構成市町村
千葉市	千葉市
東葛南部	市川、船橋、習志野、八千代、鎌ヶ谷、浦安
東葛北部	松戸、野田、柏、流山、我孫子
印旛	成田、佐倉、四街道、八街、印西、白井、富里、酒々井町、栄町
香取海匝	銚子、旭、匝瑳、香取、神崎町、多古町、東庄町
山武長生夷隅	茂原、東金、勝浦、山武、いすみ、大網白里、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、大多喜町、御宿町
安房	館山、鴨川、南房総、鋸南町
君津	木更津、君津、富津、袖ヶ浦
市原	市原

【発見経緯】

住民検診や職場健診・人間ドック等、自覚症状がないうちにがんが発見された人の割合です。早期発見のためには、この割合が増加することが理想とされています。

全国平均	全国最小値	全国最大値	当院
14.1%	0.0%	38.0%	14.1%



当院のがん患者さんが、なにをきっかけにして病院にかかり、がんと診断されるに至ったのかを表しています。

2019年以後、「不明」の割合が少し増えました。緩和病棟を開設したため、他院でがんと診断されて初回治療をした後で、患者さんが来院することが増えたためと思われます。

早期発見・早期治療のために、自覚症状がなくても健康診断を受けることをお勧めします。また、なにかおかしいと感じたら、早めに受診しましょう。

【部位・種別治療別】

当院で、初発の患者さんにどのような治療を行ったのかを部位とがんの種類ごとに件数で表しました。胃に腫瘍があっても悪性リンパ腫ならば「悪性リンパ腫」に分類しています。がんの種類によって治療の選択肢が異なるためです。

院内がん登録は、再発した患者さんに行った治療は登録しないなど、全国で統一したルールがあります。そのため、手術を行っていても「治療なし」となるなど、実際の治療内容とは異なる場合があります。

9件以下については、患者さんの特定を避けるための表示ルールに則り「1-3」「4-6」「7-9」の3段階に分けて表示しています。

《表の略称と治療内容》

略称	治療の内容
手	手術のみ※1
内	内視鏡のみ
手+内	手術+内視鏡
放	放射線のみ
薬	薬物のみ※2
放+薬	放射線+薬物
薬+他	薬物+その他
手/内+放	手術/内視鏡+放射線
手/内+薬	手術/内視鏡+薬物
手/内+他	手術/内視鏡+その他
手/内+放+薬	手術/内視鏡+放射線+薬物
他	その他治療※3/その他の組み合わせ
治療なし	治療なし※4

※1 外科的治療と体腔鏡的治療のいずれか、または両方を行っている場合

※2 化学療法、免疫療法・BRM、内分泌療法のいずれかひとつ、または複数を行っている場合

※3 肝動脈塞栓術、アルコール注入療法、温熱療法、ラジオ波焼灼を含むレーザー等焼灼療法、その他の治療のうちひとつ、または複数を行っている場合

※4 当院で「がん」と診断し他院に紹介した場合、他院で治療をした後に再発などで紹介された場合、患者さんの身体状況やがんの進行度合いから積極的な治療を行わずに疼痛をやわらげる治療を行った場合等

部位	手	内	手+内	放	薬	放+薬	薬+ 他	手/内 +放	手/内 +薬	手/内+ 他	手/内+ 放+薬	他	治療 なし	合計
口腔・咽頭	(4-6)	0	0	(1-3)	0	0	0	0	0	0	0	0	17	24
食道	(1-3)	(4-6)	0	(1-3)	(4-6)	(7-9)	0	0	(4-6)	0	0	0	10	36
胃	21	28	(1-3)	0	(4-6)	0	0	0	12	0	0	0	40	108
結腸	51	43	(4-6)	0	10	0	0	0	33	0	0	0	32	174
直腸	10	(7-9)	0	0	(4-6)	0	0	0	14	0	0	0	12	48
肝臓	(1-3)	0	0	(1-3)	(4-6)	0	(4-6)	0	0	(1-3)	0	14	29	56
胆嚢・胆管	(1-3)	0	0	0	(4-6)	0	0	0	(1-3)	0	0	0	18	29
膵臓	(1-3)	0	0	0	10	0	0	0	(4-6)	0	0	0	33	50
喉頭	0	0	0	0	0	(1-3)	0	0	0	0	0	0	(4-6)	(4-6)
肺	43	0	0	(7-9)	42	15	0	0	(7-9)	0	(1-3)	0	110	227
骨・軟部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1-3)	(1-3)
皮膚	(7-9)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1-3)	(7-9)
乳房	(7-9)	0	0	20	14	0	0	(1-3)	35	0	52	0	26	156
子宮頸部	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	30
子宮体部	17	0	0	0	0	0	0	0	(7-9)	0	0	0	12	37
卵巣・卵管	(7-9)	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	18	37
前立腺	(7-9)	0	0	0	64	0	0	0	0	0	0	0	33	104
膀胱	0	10	(1-3)	0	(1-3)	0	0	(1-3)	21	(1-3)	(1-3)	0	13	52
腎・尿路	15	0	0	0	(1-3)	0	0	0	(1-3)	0	0	(1-3)	16	34
脳神経	(1-3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(7-9)	15	24
甲状腺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(7-9)	(7-9)
悪性リンパ腫	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	13	28
多発性骨髄腫	0	0	0	(1-3)	(1-3)	(1-3)	0	0	0	0	0	0	(1-3)	(4-6)
白血病	0	0	0	0	(1-3)	0	0	0	0	0	0	0	(4-6)	(7-9)
他の血液	0	0	0	0	(4-6)	0	0	0	0	0	0	0	(4-6)	11
その他	(4-6)	0	0	(1-3)	0	0	0	0	(1-3)	0	0	0	23	32
合計	231	94	(7-9)	35	190	24	(4-6)	(1-3)	157	(1-3)	55	22	510	1,337